

令和2年度流域モニタリング一斉調査結果（西三河地域）

1 背景

水循環再生行動計画では、水循環に対する県民意識の向上を図るため、気軽に参加できる水環境の調査として、「流域モニタリング一斉調査」の実施を位置付けています。

この一斉調査は、水質・水量・生態系・水辺といった水循環に関する項目からなる「水循環再生指標」（平成19年7月作成）を活用したもので、平成21年度から実施しています。水循環再生に向けた取組の評価や見直しに活用するだけでなく、流域全体の状況把握や流域内の連携向上を期待して行っています。

2 参加者公募状況

幅広い県民を対象に流域モニタリング一斉調査の参加を促すため、事務局（県環境局環境政策部水大気環境課）が令和2年3月26日から参加者を募集しました。

また、市町村には参加者公募の広報を依頼し、29の市町村が広報、ホームページ、チラシ等を活用して公募を行いました。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により5月に募集手続を一旦停止し、調査開始時期を例年の6月5日から7月1日に変更した上で、6月から募集を再開しました。

表1 公募状況

地域名	広報	ホームページ	チラシ	複数 (広報+チラシ等)	その他	合計
尾張地域	3 (4)	2 (3)	1 (0)	7 (3)	0 (0)	13 (10)
西三河地域	4 (4)	1 (2)	1 (0)	4 (7)	0 (0)	10 (13)
東三河地域	3 (2)	0 (0)	2 (0)	1 (2)	0 (1)	6 (5)
合計	10 (10)	3 (5)	4 (0)	12 (12)	0 (1)	29 (28)

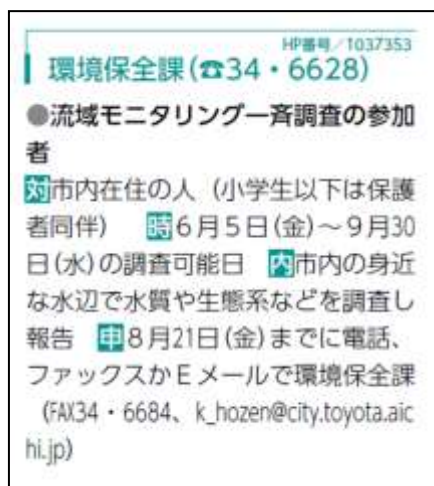
※（ ）内は、令和元年度の状況を示す。

参考

令和元年度	10 (4)	5 (2)	0 (0)	12 (7)	1 (0)	28 (13)
平成30年度	13 (5)	4 (2)	4 (1)	7 (2)	0 (0)	28 (10)
平成29年度	17 (10)	5 (1)	4 (1)	8 (3)	0 (0)	34 (15)

※（ ）内は、西三河地域の状況を示す。

< 広報参考例 >



広報とよた 2020 年 5 月号



広報あんじょう 2020 年(令和 2 年)5 月号

3 参加の状況について

表 2 実施状況

地域名	実施状況（令和 2 年度）			
	市町村数	参加団体数	延べ参加人数	延べ調査地点数
尾張地域	5（4）	42（38）	172（159）	49（40）
西三河地域	3（4）	36（47）	128（257）	39（83）
東三河地域	3（4）	4（10）	31（242）	19（16）
合計	11（12）	82（95）	331（658）	107（139）

※前年度とも伊勢湾流域圏一斉モニタリング（中部地方整備局）は含まない。

※前年度とも水質環境目標値市民モニタリング（名古屋市・夏期）は含む。

※（ ）内は、令和元年度の状況を示す。

参考

令和元年度	12（4）	95（47）	658（257）	139（83）
平成 30 年度	20（7）	104（44）	937（257）	160（47）
平成 29 年度	21（11）	108（45）	1,273（494）	196（80）
平成 28 年度	24（12）	122（52）	1,271（555）	196（87）
平成 27 年度	27（11）	127（55）	1,207（443）	213（106）
平成 26 年度	16（7）	120（67）	691（151）	146（82）
平成 25 年度	21（8）	103（52）	913（352）	141（70）
平成 24 年度	22（9）	141（88）	1,002（362）	230（152）
平成 23 年度	22（9）	134（82）	860（452）	256（139）
平成 22 年度	25（14）	103（79）	1,000（667）	210（176）

※（ ）内は、西三河地域の状況を示す。

※平成 27 年度から平成 30 年度は伊勢湾流域圏一斉モニタリング（中部地方整備局）を含む。

4 調査結果

(流域別及び各地点の評価については別紙参照)

- 延べ参加人数は 331 人（昨年度比 50%減）、延べ調査地点数は 107 地点（昨年度比 23%減）でした。新型コロナウイルス感染症の影響により、流域モニタリング一斉調査の調査期間の短縮、全国水生生物調査の中止、市町村が実施している環境モニタリングイベントや小中学校の環境学習の中止等があり、例年に比べ、市町村数、延べ参加人数、参加団体数、調査地点数すべてにおいて昨年度を下回る結果となりました。
- 各地域の調査地点は、多くが河川の中下流部で実施された評価となっています。
 - ・ 尾張地域：木曽川・庄内川等流域では、水質・水量・生態系・水辺の 4 項目が 3.1～3.8 点でバランス良く評価されています。日光川等流域では、水量が 1.7 点で、他項目と比較し低く評価されています。この評価は概ね昨年度と同様の結果でした。なお、天白川・山崎川等流域の生態系項目は、名古屋市が実施している市民モニタリング調査と兼ねた実施結果を基にしており、未評価となっています。また、昨年度同様、伊勢湾沿岸域（知多半島等）では、調査未実施でした。
 - ・ 西三河地域：矢作川等流域では、水質・水量・生態系・水辺の 4 項目が 3.4～4.1 点でバランス良く評価されています。この評価は概ね昨年度と同様の結果でした。境川等流域では、水質が 3.9 点と他の項目と比べ高く、水辺が 2.8 点でやや低い評点となりました。これは調査地点のうちの 1 つが、人工的に整備された池であり、親水性が低いためであると考えられます。また、三河湾沿岸域（知多半島等）と油ヶ淵等流域では、調査未実施でした。
 - ・ 東三河地域：豊川・天竜川等流域では、水質・水量・生態系・水辺の 4 項目すべてが 3.9 点以上で、他の流域と比較し高く評価されています。特に、水質は 4.8 点となり、昨年度の評価の 4.2 点と比べより高い評点となりました。三河湾沿岸域（豊川・蒲郡）及び三河湾・外海沿岸域（渥美半島等）では、水質・水量・生態系の 3 項目が 3.2 点以上と高く評価されましたが、このエリアでは、ごみの影響で水辺の評価は 3 点を下回りました。
- 今後は、県域全体の評価がバランス良く行えるように、モニタリングの参加者の増加と未実施流域での調査の実施を目指していきます。